

2015年(平成27年)

5/14(木)

Thursday

きょうの

発言

2014年8月に開館した菊池市泗水町の民営「菊池飛行場ミュージアム」の入館者が4月末で1300人を超えました。菊池市の遊休施設を借用し、館内には菊池(花房)飛行場の歴史がパネルで紹介されています。当時使用した飛行学校の机や椅子、戦闘機尾輪や陸軍標石柱、通信木製柱、軍用食器など展示も多彩です。来館された高齢の方からは

高谷 和生 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長

戦跡で地域づくり

「自分の戦争体験をだれかに話したかった。子どもや孫に見せたい」。子どもからは「学校で平和学習があった。自分の街や戦争のことを知りたい」との意見も寄せられています。郷土の戦争の歴史を知る手掛かりとして、また戦争資料館としての役割も重要です。菊池飛行場跡には、市指定文化財「花房給水塔」をはじめ、1945年5月空襲の弾痕が残る大型燃料庫や木製格納庫跡など30数基の遺構が現在も残されています。今後は、県内初の太平洋戦争期の戦跡フィールドミ

ュージアムとして、宇佐海軍航空隊跡(大分県宇佐市)のような官民一体の地域づくりを期待します。

一方、県南でも錦町の若手職員が中心となり、「人吉海軍航空隊基地跡活用研究プロジェクト」が発足しました。球磨地区の民間団体からは「人吉球磨は秘密基地」の啓発漫画や紹介DVDも作られ、小さな歯車ですごが動きました。戦後70年を一過性としてではなく、「平和の大切さを伝える」ための地域づくりに丁寧に取り組みたいと思います。

2015.5.14